

進修同窓会報

発行 土浦一高進修同窓会
 編集 同窓会会報編集委員会
 〒300-0051 茨城県土浦市真鍋4-4-2
 ホームページ <http://www.sin-syu.jp/>
 Eメール shinshu@tsuchiura1-h.ibk.ed.jp



同窓会長あいさつ

会長 大野 金一
 (高8回)

毎年4月に開催される進修同窓会の総会は、新型コロナウイルスの影響で令和元年度総会開催以降中止していましたが、本年度は、コロナも季節性インフルエンザ並みになりましたので、卒業60・50・40・25・15周年祝賀式も含めて開催いたしました。

土浦市内の「ホテルマロウド筑波」で開催された各周年の祝賀会にも、よぎ校長とお邪魔してお祝いの言葉を申し上げてまいりましたが、それぞれ賑やかで楽しそうでした。

前号の会報でも申し上げましたが、本年度から、当会の規約を改正し、本部幹事のうち総務・財務・広報・事務局を担当する常任幹事制度を設けました。今の進修同窓会の課題は、年会費の納付率が非常に低いということです。

創立100周年事業として建設し、生徒の学習や部活動に使用している進修学習館やアリーナの修繕費を、その都度寄付を募るというのではなく、今から積立金として積み立てておくべきです。

また、在校生の海外研修を含む活動も多様化しており、卒業生、同窓会が

関与する機会が増えております。

最近の進修同窓会の年会費3千円の納付者は、昭和30年代から40年代の卒業生は各回50名前後ですが、そのあとは、若くなるほど減少し、平成20年以降の卒業生は各回10名程になります。

この傾向で推移すると、数年後の進修同窓会がどうなるかは、火を見るより明らかです。

年会費納付者が少ないということは、住所不明者が多いことにも起因しています。卒業生の3分の1もが住所不明という年次もあります。

同窓会本部では、何万人もの会員データを管理できませんので、卒業生名簿の作成を委託している名簿専門業者「サラト」に名簿管理一切を任せておりますが、同社のデータと進修同窓会各支部で更新されているデータとの連携が、喫緊の課題です。

この会報には、サラトからの、住所不明者に係る情報提供の依頼が同封されておりますが、年会費の納付と合わせて、会員の皆様のご協力を切に願います。次号でございませう。



校長あいさつ

校長 プラニク・ヨゲンドラ

ナマステ！（こんにちは）今年度から皆様の母校である茨城県立土浦第一高等学校・附属中学校の校長に就任しました「よぎ（プラニク・ヨゲンドラ）」です。本校の校長として頑張る覚悟ですので、何卒よろしく申し上げます。本校の様々な活動において同窓会の皆様には色々な形でご協力を頂いておりますこと、大変心強く感じております。

まずは、本校の様子をお伝えします。全日制では、4月に6組240名の入学生を迎えました。コロナ禍の長い3年間を抜け、学校生活がほぼ通常の形に戻り、学校全体が活気に満ち始めています。生徒の成績が安定しており、部活動での活躍も見逃せません。運動部では、水泳飛込は国体出場。棒高跳びと砲丸投げとバトミントン部男子団体とヨット部は関東大会出場を果たしました。野球部は夏の甲子園県大会2回戦まで進みました。文化部では、囲碁（1・3年生）は県大会優勝を経て全国大会出場、美術部は県知事賞、プルデンシャル・ボランテニア大会で北関東ブロック賞を受賞し、全国大会に出場しました。オックスフォード大学に短期留学する生徒もいます。

定時制ですが、4月に24名の入学生を迎え、全生徒85名で令和5年度をスタートし、日々充実した学校生活を送っています。「クラスマッチ（運動大会）」では、生徒会を中心にフットサルやeスポーツなどを実施し、運動の得意不得意に関わらず生徒全員で楽しむことができました。8月の定通全国大会において、バドミントン女子シングルスは第3位入賞、陸上部男子3000m障害は第4位入賞を果たしました。全国大会で入賞したのは、平成25年度以降10年ぶりの快挙になります。進路に関しては、就職を希望する卒業予定生徒の全員が内定を得ました。業種

は、鉄道や製造、サービス関係と幅広いです。附属中学校ですが、4月に3学年240名が揃いました。学習面では、1人1台端末を効果的に活用し、英語教育にも力を入れています。部活動では、陸上競技部100mは関東大会出場、その他の部活動も県南大会や県大会へと駒を進め、年々レベルアップしています。文化活動では、英語プレゼンテーション・フォーラムで茨城県大会知事賞、高円宮杯全国中学英語弁論大会茨城県大会で読売新聞水戸支局長賞を受賞、ワールド・スカラース・カップ大会で3年女子が米国イェール大学で開催される世界決勝大会に出場しました。また、今年度末には3年生が海外希望研修でシンガポールを訪問し、身に付けてきた英語力を試します。

6月に開催された「一高祭では、全日制と附属中全学年が揃って参加、4年振りに、制限なしでの一般公開となりました。来場者数は史上最高の8070名となりました。9月に実施された一高オリンピックでは、中学生と一緒に、様々なスポーツに思い切り汗を流し、気持ちの良い一日を過ごしました。10月の半ばに行われた「歩く会」では、霞ヶ浦コースを設定し、美しい湖畔を巡り、高校生は約24キロ、付属中生は約20キロの道のりを、互いを励まし合い友情を深めながら、ひたすらゴールを目指しました。

私は「志のみ持参」という言葉を経営及び教育理念に掲げています。志には、ある方向を目指す強い気持ち、または相手のためを思う厚意という意味があります。全生徒にこの言葉を胸に刻んで欲しいと思います。同時に同窓会の皆様とも一緒に出来ることを探り、本校の更なる飛躍に向けて共に歩んでまいりたいと思います。微力ながらも全力で本校の発展のために努力を尽くしますので、何卒宜しくお願いいたします。

新任職員紹介



副校長 日向 久(高36回)

同窓会の皆様には、日頃より本校発展のため格段のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年度の定期人事異動に伴い副校長として赴任しました日向と申します。土浦一高は、民間人校長を迎え、附属中も3年目となり、来年度には内進生と高入生が併存して高校1年生を構成するという、大きな転換期に差し掛かります。良き歴史と伝統を守りながら、新しい土浦一高を模索し、更なる発展のため、精一杯微力を尽くしたいと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



全日制教頭 浅野 周一(高38回)

私は本校の生徒の時、一高祭で3年間ともリアリティコンテストを担当しました。いかに担任をヒーローにするかが私にとつての大事なテーマでした。その後、私が教員として一高に戻ってきたときには、リアリティコンテストはなくなっており、淋しさと同時に安堵感を感じたのを覚えています。担任、学年主任、教務主任を経て、今年から教頭を仰せ付かっております。現在のテーマも昔と変わっておりません。いかにして現場の教職員をヒーローにするか。土浦一高が生徒も教職員も輝く学校でいられるよう、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



定時制教頭 慶野 清貴

本校定時制教頭として赴任いたしました慶野と申します。「自主」「協同」「責任」の校訓の下、一高スタイルで勉強や部活動にチャレンジしている生徒の姿は眩しく映ります。

学校は知識を得る場所であると同時に、友情などを育む場所でもあります。私はこの土浦一高が、その両方の面で素晴らしい成果を上げていっていると感じております。また、歴史ある土浦一高の一員になったことを大変嬉しく思っているとともに、本校の更なる発展のため微力を尽くして参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。

定期総会4年ぶり開催

去る4月29日(土)に、令和5年度進修同窓会定期総会が、母校体育館において、周年祝賀卒業生等を含む約240名の出席を得て、4年ぶりに開催されました。

冒頭で、応援指導部のリードのもと、吹奏楽部・弦楽部の伴奏に合わせ、コロナ禍久しく歌うことが叶わなかった校歌を、参加者全員で声い高らかに斉唱しました。物故者会員に対する黙祷後、大野金一進修同窓会長(高8回)及びプラニク・ヨゲンドラ校長からそれぞれ挨拶がありました。

議事に入り、令和4年度事業報告及び決算報告・別途積立金決算報告、監査報告、続いて、令和5年度事業計画案及び予算案等が提案され、原案通り承認可決されました。最後に、次年度以降の総会日も原案通り承認可決されました。その後、中澤斉前校長(高33回)に対して、大野会長から感謝状の贈呈がありました。

総会終了後、コロナ禍で3年に亘り中断していた生徒海外研修 (Science Explorers Group) 参加者・生徒36名・引率教員3名、期間・2023年3月19日(27日)、訪問地・ワシントンD.C.・ボストン・ニューヨーク)に参加した生徒の代表から、本校出身の宇宙飛行士、諏訪理氏(高47回)との交流をまじえた

成果報告がありました。

引き続き、同会場で、卒業周年祝賀式が執り行われ祝辞を高橋信子氏(高26回)が、謝辞を井坂公明氏(高25回)が、それぞれ述べられました。

祝賀式終了後、各祝賀学年の懇親会が、それぞれホテルマロウド筑波、ホテルグランド東雲に移動して開催されました。なお、「卒業40周年」は別時期に既に開催済み、「卒業60周年」は感染を懸念し、懇親会を見合わせました。

卒業60周年記念同窓会

高15回 野村 ルナ

4年振りに開催された進修同窓会総会並びに卒業周年記念祝賀式に、15回卒業生は60周年記念としてお招き頂き、祝辞と記念品の贈呈を受けました。本来ならばこの祝賀式に大勢の同級生と共に出席し、学年同窓会も盛大に開催するはずでした。しかしコロナ感染拡大の心配が拭え切れず、祝賀式には学年幹事12名が代表で出席して、学年同窓会は残念ながら延期致しました。実は2020年10月に予定していた学年同窓会をコロナのため中止したので、今回の「延期」決断は大変辛く悩みましたが、昨年12月に大事をとって全員に通知したのです。

私達15回生は卒業以来驚異的な14回の学年会(主に5年毎の同窓会)を開催し旧交を温めて

参りました。そしてその都度徹底して住所を調べたので、進修同窓会名簿の「住所不明者」欄はとても少ない状態を保っております。でもその結果「物故者」の人数が増えてしまい、同級生を心配させているようすが……。

15回生の高校入学は昭和35年4月、女子は370数名中たった12名(卒業時は14名)でしたから、遠慮がちに過ごしており、ました。そんな中、一度だけ女子の3学年対抗バレーボール大会を開催出来たことで、小さな幸せを味わいました。体育の授業中には出番が無く、同学年の女子が本気で活き活きと運動している姿を見るのは初めてなので、素晴らしいプレーに驚き感動致しました。



要文化財である旧本館を普通の教室として使用したことです。

土足で上がるように設計された旧本館には昇降口が無く、廊下に置いてあった下駄箱に靴を入れて上履きに履き替えました。教室の大きな扉。机と椅子が繋がった落書きだらけの木製の黒い座席。上げ下げ窓のガラスがデコボコで、景色が歪んで見えたのも懐かしいです。床のすき間が大きかったから、掃き掃除の小さなゴミはそのすき間に落としました。長い間に床下にはどんな落とし物があつたのだろうと想像は膨らみます。

時々、テレビドラマ等で旧本館の教室や廊下が写ると懐かしく思い出し、60年経った今でも胸がキュンキュンしてきます。

最後になりましたが、土浦一高と進修同窓会のご発展をお祈りし、卒業周年記念祝賀式開催を心よりお礼申し上げます。

卒業50周年記念同窓会

高25回 豊崎 利明

これまで経験のない新型コロナウイルスによるパンデミックの脅威で会合はもちろん外出すら控える状況下になりましたが、何度かの予防接種を経て徐々に落ち着きを取り戻し、やっと4年ぶりに直接対面の総会・祝賀式が実施されました。我々50周年同窓会も懇親会のは非から話し合いが始まり、状況によっては中止も視野に入れて準備して参りました。



幸いにも何事もなく執り行うことができましたことを心より安堵しております。式も簡素化し、謝辞は我々50周年のみとなりました。この大役を井坂公明君が長年記者として鍛え上げられた筆を通してこれまで半世紀を総括しました。一部紹介しますと先進国の中で日本は教育予算が少ないことを挙げ、一若い世代に希望の持てる形でバトンを渡していくには予算が少ない中でも教育に優先的にお金を振り向けていく必要がある」と述べ

べました。まさに同感です。式には79名、懇親会には63名が参加しました。また81名から近況報告を頂き、参加者に配付しました。懇親会では恩師の下代恒夫先生を迎えて盛大に執り行うことができました。株木実先生は体調がすぐれないとのことであ席されましたが、お祝いの温かいメッセージを頂きました。長く勤めた仕事にも一区切りついた年代でもあり、遠くから今回初めて参加した者もいました。すっかり風貌も変わり、胸の名札を頼りに昔の面影を思い出しながら語り合うと一気に50年前の昔に戻った気になります。定年を過ぎてでもお元気に働いている者が少なくないのも今の時代の流れを感じます。一方でこの10年で亡くなる者も増え、さらに予測不能なこの時代に元気に会えるのも今回限りかも知れないとの思いもあり、この会を企画しました。終わってみるとありがたうと喜んで帰る姿に発起人の一人として報われた思いです。最後に何度も準備に足を運んでいただいた発起人の方々、特に写真撮影や宴会の準備等で大変お世話になった矢口孝夫君、稲田成実君に感謝し、卒業50周年同窓会の報告とします。

卒業40周年記念同窓会

高35回 塚本 一也
令和5年4月29日開催の進修

同窓会総会は、私達にとって2回目の周年記念同窓会の日でした。

新型コロナウイルスが蔓延し、人類を恐怖に陥れてから、早3年が経過しました。この間、私たちの生活習慣は大きく変わりました。人の移動や集いに制限がかけられ、特に飲食の伴うパーティーはご法度となりました。感染拡大が収束するかと思いきや、新種のウィルスが広まり、再び行動制限がかかってしまふ。その繰り返しが続いている最中の、令和4年7月に学年の幹事会を開催しました。

「今の調子でいくと、年末年始に向けて再び感染者数が増えいき、4月の段階でどういう状況になっているかは予測がつかない」という一同の意見でした。

そこで、感染者数が下火となつているこの時期に、先行して同窓会を開催しようというのが幹事団の結論となりました。それから3カ月かけて準備をし、令和4年10月9日に土浦市のロープにおいて、40周年記念同窓会を開催することができました。出席者は68名、恩師の先生方は5名のご出席をいただきました。

今回の教訓として、当初は感染対策の一環として取り入れた円卓での着席・個別配膳方式が、実は非常に好評だったということがあげられます。私達も卒業40周年を迎え、間もなく還暦と

なります。寄る年波には勝てず、着席での飲食の方が楽だという感想が多かったようです。

また、連絡方法にSNSを使用し通信費を節約したり、米国からWEB参加してもらったり、いくつかの新しい試みも採用しました。次回まで健康でいよう、と再会を約束し散会いたしました。

卒業25周年を迎えて

高50回 小池 利明

春は別れと出会いの季節と言われていますが、今年に至っては、再会の季節と呼ぶにふさわしい年となりました。卒業25周年を迎え、2023年4月29日、90名を超す同級生と9名の恩師が、定期総会後にホテルグランド東雲で行われた同窓会に集まりました。

この同窓会の準備は1年ほど前からスタートしました。15周年の時に作ったFacebookのページは現在も生きており、Facebookでの告知、Google Formsを用いたメールアドレスの回収、ハガキを使った連絡と色々な手段で同窓生との「つながり」を作ってきました。せっかく集めた「つながり」ですので、次の40周年まで「つながり」を保って行きたいと考えております。最終的なハガキでの連絡では、残念ながら連絡のつかない同級生が38名ほどおりました。

今回の同窓会では、茨城の特産品をお土産で持って帰ってもらう企画をしました。参加者分のお土産の用意をしてくれた平島夫妻には改めてお礼を申し上げます。予定していた3時間があつという間に過ぎ、事後のアンケートでは、「お土産がうれしかった」という声や「もっと時間が欲しかった」という声が多く聞こえ、参加して下さった



た皆様に喜んでもらえたと感じています。

この同窓会の1カ月前、WBCの感動で日本中が沸きました。ダルビッシュ選手のチームをまとめる統率力、NPBでの経験のないヌートバー選手を受け入れるチームの雰囲気、村上選手の復活劇、大谷選手の気迫あふれるプレー、そして、選手を信じ続けた栗山監督の信念。途中招集の山崎選手以外は全員が出場するというチーム戦で世界一に輝きました。数々のドラマを見ることのできた2週間でした。

同窓会の様子を見ると、同級生たちは、それぞれの所属組織で中心となって大いに活躍していることが分かりました。活躍は国内にとどまらず、海外にまで広がっています。土浦一高の卒業生が集まったら、WBCの日本代表以上のチームワークを発揮して、世の中を大きく動かすことができるのではないかと思います。この同窓会では、それくらい、本校卒業生のポテンシャルや実力を感じることができました。

チャットGPTが生み出され、色々なものをAIで行う時代に入ってきました。人が行うことの価値が問われるようになりましたが、高50回生は、諸先輩の作られた土浦一高を発展させ日本を支える人材であると確信できました。最後になりますが、土浦第一



高等学校・附属中学校及び進修同窓会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

卒業15周年記念同窓会

高60回 長谷 龍骨

残暑厳しい中、この文章が皆様のお手元に届く頃には寒さを感じられる季節になっていくかと想像しながら、この寄稿文を書いておきます。

進修同窓会の皆様におかれま

してはいかがお過ごしでしょうか？私は、仕事に邁進、余暇では趣味のマラソンにも励んでおります。このような充実した日々を送れるのも、土浦第一高等学校での学びが基盤となっており、素晴らしい学校を卒業したことに誇りを持っております。しかし、月日が経つのは早いもので卒業してから早15年。卒業15周年ということ、去る4月29日、土浦第一高等学校の体育館で進修同窓会総会・周年祝賀式、場所をホテルマロウド筑波に移し、卒業15周年祝賀会（以下同窓会）を執り行いました。同窓会には第60回卒業生、先生方を含め100名以上がご参加くださり、再会の喜びを分かち合い当時の思い出を蘇らせました。共に開催準備を進めてくれた3人の友人には感謝してもきれません。幹事という大役を任せられ、至らぬ部分も多かったかと思いますが、沢山の方々のおかげで開催できたことをここに深く感謝申し上げます。

自身を振り返り、更なる努力を重ねようと胸に秘めました。私事ですが、同窓会にて嬉しい再会もございました。大学入学後から中々会えていなかった友人と、今回を機にまた新たに交流を再開いたしました。息子を連れてその友人のご実家に遊びに行かせていただいたり、久しぶりに食事に行ったりと楽しいひと時を過ごしております。大人になると、心動かされるような瞬間は少なくなるように感じますが、今回の会が皆様にとってそのような機会であったなら幸いです。最後になりますが、土浦第一高等学校・附属中学校及び進修同窓会のご発展を心からお祈り申し上げます。

卒業60周年を迎えて

定時制13回 貝塚 勇

私達は、昭和35年春、80名が、一抹の不安を抱き乍ら、志を持って入学し、昭和39年春の卒業時には47名でした。当時の社会情勢は厳しかったのかと思えます。

中学生になった私は、家庭の事情を考え、教頭先生の勧めで働きながら学べる土浦一高定時制を選び、働き先は荒川沖小学校の臨時事務職員として勤務することにいたしました。

主な仕事はガリ版印刷で、毎日600〜1000枚の印刷を何とかこなしました。

「一高の授業に遅れないように」と職員の皆様が背中を押してくれました。何よりも、学校に行けば仲間に出会える、部活が出来る、給食が食べられる、勉強ができる、このことがエネルギーになりました。一校時が終わった後に頂く、脱脂粉乳とコッペパンは、仕事に疲れた身体に真に染み渡りました。授業終了後は部活に汗を流し、帰宅はいつも11時頃になりました。ご指導頂きました先生方を思い出してみますと、威厳のありました山本英校長、職員を毎年自宅へ招き食事を楽しまれた清水繁次郎教頭、教務主任であり数学の土井鱗助先生。英語の稲吉一雄先生は、演劇部の顧問をもされておりました。私は人前で話すのが苦手でしたので、克服するために演劇部へ入りました。毎年演目が違いますので、舞台作りは大変でした。数学の土井先生の授業では、進学校で使っている教科書と同じでしたので、理解出来るよう、わかりやすく丁寧に指導してくださいました。「授業は休んではだめだよ、授業にもっと集中してごらん」。先生の授業は、厳しさの中にもいつも笑いが絶えず励まされました。

もう一つ忘れられない授業がありました。国語の中川哲先生の現代文です。その授業では島崎藤村の「若菜集」を教壇に立つなり読み始めます、生徒は、すっかり藤村の世界に入ってしまった。先生はこう話されました。「定時制は苦しいからと逃げようとするな。どんなに苦しくても逃げないで頑張るんだよ」と。何年たっても忘れられない言葉です。たくさんの先生方の慈愛に満ちたご指導や励ましがあってこそ、と深謝の念でいっぱいでございます。在校生の皆さん、つらいこと困難なことがあっても、頑張つて卒業の栄冠を手にしてください。その後、皆様の前に新しい世界が広がります。「愛」と「希望」が達成されます。皆様の努力を心から応援しています。私達は間もなく傘寿を迎えますが、これまでの人生は平和であったこと、経済も概ね良好であったこと、良き師良き友にも出会えたことは、大変幸せでした。これからの余生は、健康に留意し、地域活動にまた興味などに取り組んで参ります。最後になりましたが、他界された恩師および同期生のご冥福をお祈り致すと共に、土浦一高・附属中学校と進修同窓会の一層のご発展と会員の皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。結びとさせていただきます。

私は、後輩の皆様のために何かお役に立ちたいと、定時制部会の監事と進修同窓会の副会長とを仰せつかっております。及ばず乍ら、これからも本校の充実発展に貢献したいと思えます。

恩師を訪ねて

丸島 秀明 先生 (高10回)

(昭和37年4月〜昭和54年3月 17年間在職)



大学卒業後、新採で保健体育科(以下「体育科」)教員として母校の土浦一高に奉職、17年間を振り返る機会を頂きました。

当時の体育科は、富田昇・入江信太郎・矢口四郎・中山守の各教諭と吉田久子養護教諭との5名の恩師に囲まれての勤務で、2年間は、通信制課程との兼任でした。

体育科の授業は、年間を通して球技中心で、屋外では、ソフトボール・フィールドハンドボール・バレーボール(9人制)、屋内では、バスケットボール一面で1チーム8〜10名ぐらい編成で実施していて、女子はクラス3〜5名で、卓球かパンポンしか出来ませんでした。必修種目になったのを機に、柔道・剣道が加わりました。

工夫を凝らして取り組んでいた特色ある実技種目は、**一高体操**・他校には無い本校

独自のものとして、入江先生(昭和29年制定)が考案されました。デンマーク式体操を基にした、誘導振(腕の前・横振り)に始まり、誘導振に終わる、常に上肢をリズムカルに動かし続ける、四部構成15の運動から成る一連の徒手体操です。これを覚えることから一高生活が始まります。(現在も引き継がれていますが、動画で見た限りではかなり省略されている。)

スポーツテスト・走(3種目)100m・800m・1500m、跳(2種目)走幅跳・三段跳、投(3種目)砲丸投(3kg)・円盤投(女子用ゴム製)・槍投(竹製)、懸垂(2種目)懸垂屈臂(腕)・懸垂移行(高鉄棒11間をぶら下がって渡る速さを記録した。)の10種目を得点化し、学年での進歩を評価しました。

スピードボール(土中球)・サッカー・ラグビー・ハンドボール・アメリカンフットボールの4種目を混合したルールで、ラグビーゴール(サッカーゴールの縦バーの仮想垂直線を延長した。)を用い、ボールはゴム製ハンドボール(後に、不規則パウンドを求めてゴム製のアメリカンフットボールを使用した。)を使用しました。

パンポン・ソフトテニスのボール使って、ベニヤ板をB4判大に切り取りラケットとして用い、コートはバドミントンコート大、ネットは40cm高さの木製手作り仕切りで代用します。ルールは卓球と同じで、入江先生の考案でした。

水泳教室・25mを泳げない生徒に、在学中に完泳させるために、「夏休み特別教室」として5日間行っていました。後に3日に短縮されました。(殆どが第1学年で完泳の成果を挙げた。)

校内マラソン大会(昭和24年から続いていた)・本校は藤沢八坂神社間往復12kmで行っていましたが、国道125号バイパス工事が入り通行不能となったためコースを変更し、本校より神立駅間往復11kmになりました。更に、神立のタキロン工場発着で、付近の8km周回コースでも行われました。しかし、道路事情が厳しく、コース設定が次第に困難になり、歩く会に変更し、担当教諭で、筑波風返しパープルラインの学校までのコース設定に至るまでには、夜を徹して実踏したことが思い出されます。

スキー教室・冬休みを利用して、希望者を募り実施しました。会場は、菅平スキー場・尾瀬岩鞍スキー場などです。バッジテスト(1級白・2級青・3級黄・4級緑・5級赤)を行いました。

体育祭・学年別クラス対抗を中心とした運動会で、やがて、生徒が企画・運営する「一高オリピック」、「一高祭」へと移行していきました。

体育施設が十分には整っていなかったもので、鉄棒・砂場・球技用のゴールポスト・パンポン用仕切り(ネットで代用した。)等を手作りしていたため、体育科は「何屋さん？」と揶揄されていたようです。

パソコン・ワープロが未普及のため、書類作成は、全てガリ版印刷で、ソロバン全盛でした。前述の一高体操の図解・教材のルール説明・テスト問題・学校行事資料等々の作成には、時間的にも随分と労力が費やされました。

関係した部活動顧問(顧問の転勤により受け持ったり、臨時に担当したりした顧問も含む。)

体操部・器械体操を学生時代より専門としていた関係で指導するのは県南大会・県大会に出場しました。

水泳部・県大会・関東大会に出場しました。

ラグビー部・受験間近い3年生が、10月の県大会まで出場した、遅いケースがありました。

山岳部

一高に決まるまで就職先が決まらなければ父親の理容業の後を継ごうと覚悟を決めていた年度末ギリギリに、駅前のマゼン書店諏訪正次郎先生から電話が入り、山本英校長先生が「明日面接をする」旨の内容でした。八甲田山に春スキーツアーの計画を急遽キャンセルし面接に臨んだところ、新任として採用することになりました。新学期に出勤すると、周りの先生方は、体育科のみならず

他教科事務職員も殆どが恩師でした。通信制兼務(2年間契約)での教員生活が始まりました。

山本英・長南俊雄・山口勇吉・橋本一郎・田中義雄・遠藤俊夫と第13代からの6人の校長に仕えたことになりました。

プロフィール

昭和15年2月25日生 東京都神田須田町出身

戦時下で奈良・和歌山の2県に互り疎開先を転々とする

学歴

土浦小・土浦一中・土浦一高(昭和33年3月、第10回卒。3年生の夏には、野球部が北関東大会を勝ち抜き甲子園に初出場し、2回戦進出を果たした学年です)・茨城大学

職歴

教諭 土浦一高17年
竹園高校10年
牛久栄進高校11年

非常勤講師

土浦二高2年
土浦工業高校3年
保護司11年
スポーツ関連資格等

公益財団法人日本スポーツ協会公認

(財)全日本スキー連盟スキーコーチ2(スキー功労指導員)
(財)日本テニス協会 テニスコーチ2

NPO法人日本ノルディックフィットネス協会公認 アドバンスインストラクター

スキーのストックを改良したポールを持って歩くノルディックウオーキングを、地域の皆さんと楽しんでいきます。

卒業生レポート

「地球科学、国際開発から宇宙開発へ」

諏訪 理(高47回)



私が土浦一高に入学したのは1992年4月でした。その年の9月にNASA(現JAXA)宇宙飛行士、毛利衛さんがスペースシャトル「エンデバー」に搭乗し、初めてアメリカの宇宙往還機で宇宙飛行をした日本人になりました。続く1994年7月、向井千秋さんがスペースシャトル「コロンビア」で宇宙へ飛び出しました。それより前の1990年12月にはTBSの秋山豊寛さんが、ソ連のソユーズ宇宙船で、日本人として初めて宇宙空間に到達してました。私が高校に入学した4月は、今も現役で日本の有人宇宙開発を力強く牽引してくださっている、若田光一さんが、宇宙飛行士として選抜された時でもあり、私の土浦一高時代は、まさに日本の有人宇宙開発の黎明期であったので、私の宇宙への興味はそういった時代文脈の中で培われていったのですが、思い返すと、高校時代は、部活や一高祭など高校生活を楽しみながら、常に、「人生で何をす

ればいいのか？」と悩んでいた時期でもありました。当時は色々な分野に興味があったのですが、結局、それらは「地球科学」「国際開発」「宇宙開発」という、一見、それほど関係のない3つの分野に収斂していきました。ただ、そういった3つの分野を、自分のキャリアアデザイン(当時はこの言葉を知りませんでした)にどう反映していけばいいのか、いったい何から手を着けていいのか、途方に暮れていた、そんな高校時代だったと思います。結局、地球を科学的により良く理解することを目標とする「地球科学」という分野をまず勉強し、それと「国際開発」という発展途上国の持続可能な発展を、お手伝いする分野を繋げる努力から始めて、「地球科学」と「国際開発」との接点を常に意識する仕事を40代半ばまで続けてきました(こちらの経緯は、ご興味があれば、前職・世界銀行でのインタビュー記事をご覧ください https://www.worldbank.org/ja/news/feature/2016/07/07/interview-nakoto_suwa)。主に、防災や気候変動対策といった分野の仕事をアメリカやアジアの国々としてきましたが、面白い仕事を、魅力的な同僚やエネルギーに満ち溢れたアジア・アフリカ政府関係機関やアカデミア、民間の方々、国連や各国のパートナー機関と一緒にしてこられたのは、本当に幸運でした。ただそういった仕事をしながらも、宇宙への興味は、常に、頭の片隅にあった気がします。土浦一高時代に受けた授業で、今でも記憶に残っているも

のが幾つかあります。そのうちのひとつに、高校卒業際に受けた英語の授業があります。「宇宙開発と地球上の問題」を読んだ、自分の考えを述べよ、といった内容でした。宇宙開発に巨額の投資をするより、その資金を喫緊な地球上の課題解決に回すことによつて、より多くの方が救われるのではないかと書いた文章だったと思います。解答は日本語で書きましたが、宇宙開発への投資は未来への投資でもあり、長期的な視点では、地球上の問題解決と矛盾しない、といったことを生意気にも書いた記憶があります。実は、その授業で考えたテーマは、自分の職業人生のテーマそのものになってきているかもしれない、と最近思うことがあります。前職の世界銀行のミッションは、世界の貧困撲滅と繁栄の共有の促進でした。簡単に達成できるミッションではないのですが、同時に、目標達成に確実に手の届く範囲に、我々は前進してきているという事実には勇気づけられます。とはいえ、特に脆弱性・紛争・暴力(FCV)の影響下にある国を含めた、数少ない国々は、その目標に到達するために、まだまだ多くの課題を抱えています。そういった国では、基本的なインフラやニーズを満たすための資金供給に大きなギャップがあり(とはいえ、多額の資金を使うことも簡単ではありませんが)、もしゼロサムゲーム的に考えるのなら、他の事業で使う資金を、その需給ギャップを埋めることに使えば、少しは物事が好転するかもしれない、と考えることも

できるのかもしれませんが。私はアフガニスタンの案件にも関わっていました。そういった地で、このことを考えるときに、いつも思い出す光景がありました。私は、大学院博士課程修了後に、アフリカ中央のルワンダという小さな国で高校や大学の先生として職業人生をスタートさせたのですが、ルワンダの高校で、日本のエース宇宙飛行士・若田光一さんが行った「おもしろ宇宙実験」の映像(現在Youtubeでご覧になることができます。https://www.youtube.com/watch?v=fyIDbH1323Y)を生徒たちに見せたことがありました。その時、それまでに輝いた生徒たちの目を、今でも忘れることができません。その直後、生徒たちから発せられた質問の数々は、「宇宙」の持つ魅力そのものを反映している気がして、思わず圧倒されました。宇宙開発の果実は、世界のこういった地域で、もつともっと感じてもらうことができるのでは?と、その時、強く思われました。今回、宇宙飛行士候補者に選ばしていただいた時も、当時の職場の同僚から途上国政府の同僚から多くの温かいお祝いの言葉を頂いて、とてもうれしく思いました。退職の際、この6月に就任したアジェイ・パンガ世界銀行新総裁からは、「国境を超えた問題、気候変動やパンドミックなどいろいろあるけれど、そういった問題を考える上で、宇宙の視点はきつと大事になってくるよ」とおっしゃっていただいたのも、心に深く残

りました。まだまだ形にしている努力は必要なのですが、「宇宙開発」とは、「地球上の問題の解決」とは、今後ますます切り離せない分野になっていくのかな、と思うことと、同時に、これからそういったことを常に頭に置いて、宇宙飛行士(まだ宇宙飛行士候補者という立場ですが)という新しい仕事に邁進していければ、と思っているところです。有人宇宙開発は、国際宇宙ステーションに代表される地球低軌道の時代から、月、そして火星に向かう深宇宙探査、惑星探査の時代に重心が移っていくことだと思います。他の天体を知ること、よりよく地球を理解することなども思いますので(まさに「地球・惑星科学」のテーマでもあります)、そういった違った観点からも、「宇宙開発」と「地球の問題解決」との繋がりが見えてくる可能性もあるかもしれません。一高を卒業してから30年弱の月日が流れましたが、ふと気づいてみると、一高時代、興味がありつつ、あまり関係ない3分野と想っていた「地球科学」「国際開発」「宇宙開発」にそれぞれ関わる機会を頂いて、それぞれが自分の職業人生の中で少しずつ、繋がりを見せてきたというのは、自分の中で、本当に不思議な感覚で、また幸運に感じているところです。宇宙飛行士としての道はまだ始まったばかりですが、1995年1月、真鍋の校舎において、あの英語の授業で読んだエッセーに、少しでもより説得力のある答えが出せるように、これからも努力を続けていきたいと思っています。

支部・OB会だより

真鍋支部

真鍋支部はコロナ禍で3年間対面での総会・懇親会を中止しました。

令和5年5月、4年振りに開催。欠席者が数名いましたが、30歳代から米寿(飯村相談役)までの男女99名参加で楽しく集う事ができました。コロナ前にはご参加の高齢者が、20名以上ご逝去や体調不調等でご欠席。コロナ禍での3年空白の影響の大きさを再認識しました。

総会では、武井同窓会副会長、よぎ新校長よりご挨拶を頂きました。

又、コロナ禍を含め2期4年間に亘り真鍋支部の発展に尽くされた清水浩支部長(高13回)が、支部役割の若返りをと強いご意向で、川島(高13回)・小松崎(高14回)両副支部長と共に退任し、相談役になりました。

新支部長に高山了(高18回)、副支部長に山口貴士(高23回)・海老原一郎(高24回)両氏、更に初の女性幹事として齊藤憲枝氏(高18回)を選任。幹事も全体で4名減の8名で全員が役割を担当。名前だけの幹事はなく、スリムで筋肉質の10歳程若い体制になりました。

「築城3年、落城3日」と言われ、どんな組織でも明確な理

念「誰の為に何をするか」と、不断の改善が無く前例踏襲では衰退は必然。

真鍋支部も例に漏れず、隆盛期と休眠期とを繰り返して来ました。母校を擁する地元支部として、再興熱意に燃える小野治前々支部長(高9回)の下、平成29年6月、理念や具現化する幹事を一新し「新真鍋支部」が再始動。理念は「地元の同窓生を『つなぎ・広がり・楽しむ場』を提供させて頂く」とし、役員幹事は裏方・おもてなしに徹しました。一気に97名の参加。その後も23名、114名参加も、コロナ禍で3年間休止。

毎回アンケートを集計分析し役員会で検討。翌年に改善策を具体化。各支部との交流を大事にし、東京支部、美浦支部、県庁支部、今年は新設「つくば支部」の古徳支部長にご挨拶を頂きました。講演は江田麻裕子氏(高34回)の「男性脳・女性脳」。更に、母校や地元の方々との対面交流も大事と考え、昨年は総会・懇親会は中止したものの、コロナ対策をして初の試み、同窓生落語家、立川志のぼん・好文亭梅朝で母校の施設で「真鍋寄席」を開催。60名強のご参加で大好評。今年も10月15日に「第2回真鍋寄席」を開催。旧本館見学会、母校弦楽部演奏会も寄

席の前に開催。参加者は同窓生でなくても同伴者なら可として、生徒、同窓会、地域社会との交流も、150名以上の参加で笑いの多い会でした。

評議員による会報・開催案内のポスティング、会報のネット印刷、真鍋支部HPの開設とデジタル化により経費節減をし、年会費は無し。同窓生間、学校・生徒、地域社会との輪が広がれば、と願っています。

会報、アンケート結果等はHPで公開しています。「土浦一高 真鍋支部」で検索してご覧下さい。

尚、来年は令和6年5月12日(日)に総会・懇親会を開催する予定です。

支部長 高山 了(高18回)



(第1回真鍋寄席) 実行委員と出演者 (大久保写真館提供)

県庁進修同窓会

県庁進修同窓会は、去る6月22日、水戸市内のホテルにおいて進修同窓会水戸支部との合同懇親会を開催いたしました。

新型コロナウイルスの5類移行を受けて、3年ぶりの合同開催の運びとなり、大井川和彦知事やプラニク・ヨゲンドラ校長先生などのご来賓を含め約70名に参加いただきました。80歳代から20歳代まで、先輩・後輩・同級生が、懐かしい青春の日々と同窓の繋がりを改めて感じた楽しい宴となりました。

懇親会は、私と水戸支部の大竹伸一支部長の主催者挨拶に続き、ご来賓の大井川知事、小野治進修同窓会副会長、幡谷浩史前会長、金子敏明県議会議員からご挨拶を頂き、県庁の久保田行政監察監の乾杯の発声により懇談に入りました。

大井川知事からは、ご挨拶の中で「知事就任以来、教育・人づくりが最も重要な課題の一つと認識し、中高一貫校の創設など様々な改革に取り組んできた。人口減少が進み、予測困難な非連続の時代を迎える中、変化に対応できる人材を育てていくことが国全体として求められており、土浦一高がそのリーダーとして生徒一人ひとりの個性と才能を伸ばしていく教育に取り組み、グローバルに活躍できる人材を育てて欲しい」とのお言葉を頂きました。

また、乾杯の後、今年4月から民間公募制度により校長に就任されているよぎ校長先生(ご本人の希望により「よぎ先生」と呼ばせていただくことになりました。)からは、母校の近況と併せ、ご自身のこれまでの多様な経験に基づき前例に囚われない発想で、生徒一人ひとりと向き合う教育に取り組まれている様子をご報告いただきました。よぎ校長先生の今後益々のご活躍を心からご祈念申し上げます。

余談になりますが、県職員(教職員は除く。)の出身高校別の人数をみると、土浦一高出身者は5番目の勢力だそうで(最大勢力は水戸一高)、こうした集いにより、庁内の縦横の繋がりがや水戸支部の皆様との新たな関係を育て、それぞれの業務にも良い影響を与えられるような同窓会であり続けたい、という思いを新たにしたいと考えています。

楽しい時間は瞬く間に流れ、宴の終わりに、全員で校歌を歌い、県庁の池田土木部都市局長の中締めによりお開きとなりました。

会員の皆様のご健勝・ご活躍と母校の今後益々のご発展とを心からご祈念申し上げます。といたします。

県庁進修同窓会長 湯浅友明 (高36回)

母校だより

文化祭を『一高祭』 第77回一高祭運営委員会委員長

2年B組 中村 陽佑

高校3学年、附属中3学年の合計6学年が揃って初めての開催となった第76回一高祭は、4年ぶりの一般公開ということもあり、大盛況で幕を閉じました。

この第76回一高祭は長い一高祭の歴史から見ても、かなり特異なものであったと思います。新型コロナウイルスの影響だけでなく、特別棟の工事や台風の影響による悪天候の中での準備など、イレギュラーに次ぐイレギュラーにより、「例年通り」という言葉に縛られない柔軟な対応が求められ、一高祭を準備・運営する側として大変苦労しました。

いざ迎えた一高祭当日、私は来場者の多さに驚きました。最終的に、第76回一高祭には2日間合わせて8千人を超える来場者が訪れました。コロナ禍前の来場数が例年5、6千人だったことを考慮すると、今回の来場者数は歴代の記録を大幅に塗り替えるものでした。この結果から、在学生やその保護者だけでなく、多くの方が一高祭に関心をもってくださっていることを実感しました。

また、私がこのこと以上に驚いたのは、ほぼ全ての来場者が笑顔で入場し、企画を楽しみ、笑顔のまま退場していったことでした。1日目の大雨による雨

プログラムの実施に伴う会場変更や予想を上回る人数の来場者への対応など、運営側が苦労する場面がありました。一高生は勿論、来場してくださった全ての方々が、笑顔で一高祭を楽しみ様子を見ることができました。改めて、第76回一高祭を共に創り上げてくださった全ての方々に感謝申し上げます。

さて、先程第76回一高祭は特異なものであったと書きましたが、私は第77回一高祭もある意味では、特異なものになると考えています。それは、新型コロナウイルスによる制限が無くなく、「完全な一高祭」が復活するからです。第76回でも来場制限のない一般公開をすることができましたが、第77回では企画段階から多くの人が制限を意識せず心から楽しめる一高祭を創り上げることができるとです。

しかし、私たち77回の代にはコロナ禍前の「完全な一高祭」を経験した人はいません。このことは一見、誰も「完全な一高祭」を運営するためのノウハウを持たない緊急事態のように思えますが、私は逆にチャンスだと思っています。今まで脈々と受け継がれてきた伝統を改めて見詰め直すチャンスであり、私たち色の全く新しい一高祭を創るチャンスです。何が「文化祭」を「一高祭」に変化させるのか、どうしたら今の時代にある「新しい」一高祭を創れるのか、

前例にとらわれず、最善を求めて考え、第76回一高祭同様に一高祭に関わった全ての人が笑顔で始め、笑顔で終えるような一高祭を創り上げられるよう尽力していきます。

第77回一高祭が無事成功し、一高祭の輝かしい歴史の77ページ目として、後輩に引き継げるよう、私たちにできる全てのこととに全力で取り組んでいきたいと思っています。



華道部

2年E組 大和田瑞夏

華道部は、令和5年5月20日、岐阜県で行われた第3回高校生花いけバトル全国選抜大会に出場しました。花いけバトルは、

いわゆる生け花とは全く異なります。「バトル」と呼ばれる出場者たちが、花と真剣に向き合い、5分間即興で花を生けて大きな作品を作り上げます。会場にはたくさんのお花や枝物、流水が一列に並べられ、バトルはそれらを走って取りに行きます。初めて見るような花材もたくさんあり、会場に入ったときには、とてもわくわくしました。

大会前日のリハーサルでは大失敗してしまい、当日の朝は緊張が最高潮でした。その上、派手なパフォーマンスをしているチームが多く、「私たちの作りたいものは地味と思われないうるか」と不安に思いました。しかし、「自分を信じてやれば大丈夫。自分の作りたい作品を作ろう」と先輩方の励ましを胸に本番に臨み、納得のいく作品を作ることができました。

入賞が叶わず、悔しい思いをしましたが、先輩方とともに頑張った花いけは、貴重な経験になりました。そして何より、大好きな花にたくさん触れることができ、他のチームの作品からもたくさん刺激を受けたことが大きな収穫となりました。この経験を、これからの大会に生かしていこうと思います。

SEG23で学んだこと

2年C組 植村 光希

私はSEG23に参加し、9日間アメリカで研修を行った。私は、この研修で大きく分けて3

つのことを学んだ。

1つ目は、行動力を持つことの大切さだ。私たちは1日目に世界銀行を訪れ、宇宙飛行士候補に選出、された諏訪さんを始めとして、世界銀行に勤めている方々から貴重なお話を伺うことができた。その中で全員の方が共通して仰っていたのが「行動力を高める」ということの大切さだ。諏訪さんは、何か行動をして、たとえそれが失敗という形になってしまったとしても「失敗は挑戦の証だ」と捉え、「失敗も誇る」ということを仰っており、また、「何事も挑戦しないで死ぬ方がリスクが大きい」と考えていて今までたくさんさんのことを挑戦して、その結果として宇宙飛行士になれたと仰っていた。私自身、失敗を恐れて行動に移せなかったという経験がたくさんあった。しかしこれからは失敗を恐れず、何事にも積極的に行動していこうと思った。

2つ目は一つのことを掘り下げることの大切さだ。この研修では国際的に活躍している方々にお会いして、お話を伺うことができた。そのような方々は全てのことの特化しているわけではなく、自分のある長所を武器にし、自分とは異なる分野を専門として人と互いに協力しながら仕事をしている。そのため、自分の興味のあることについてどんどん掘り下げていき、一つのことを専門とすること、将来活躍するためにはとても大切なことだと思った。私は将来国際的に働きたいと考えて

いるため、これからは自分の興味を大切に、そのことについてどんどん深掘りしていきたいと思った。

3つ目は英語を学ぶことの大切さだ。この研修では、英語での講義やワークショップ、現地の大学生やお店の店員とのコミュニケーションなど様々な形でネイティブの英語に触れた。その中で私は、相手の話を理解するのに必死になってコミュニケーションが常に受け身になってしまい、自分の英語力の低さを感じた。グローバル化が進む今、外国の人とコミュニケーションを取ったり、国際的に活躍するためには英語が必須であるため英語を学ぶことの大切さを改めて強く感じた。そのため私は、日本で英語をしっかりと学び、将来どこかに留学をして、英語を自由に扱えるようになりたいと思った。

最後に、この研修は先生方を始めとして、現地で働く方々や現地の大学生、日本で様々な手続きをしてくださった方、そして家族など多くの方々に支えられて行うことができた。そのため協力してくださった全ての方への感謝を忘れずにこれから過去としていきたい。

バドミントン部

2年A組 宮良 幸昌

皆さんは「バドミントン」という競技がどのようなものかご存知でしょうか。恐らくネットを挟んでシャトルを打ち合うという何となくのイメージをお持ちだと思います。しかし、実際

はスピード感溢れるラリーやその中で行われる駆け引きなど想像より激しく、奥深いスポーツだと思っています。

さて、私たちバドミントン部男子は今年6月に行われた第69回関東高等学校バドミントン選手権大会に29年ぶり10回目の出場を果たすことができました。

5月に先立って行われた県予選では厳しい戦いが続きましたが、関東大会出場枠が4枠という中、第4位という成績にて出場を決めました。共に練習を積み重ねてきた仲間と大きな達成感を感じることができました。本戦では残念ながら一回戦敗退という結果に終わってしまいました。ですが、今後に繋がる貴重な経験をさせて頂いたと感じています。そして、関東大会と同じく6月に行われた茨城県高等学校総合体育大会バドミントン競技においても第3位という結果を収めることができました。

このような結果を残せたのは支えて頂いた顧問の先生、そして関東大会に向けた練習を手伝って頂いたOBの方々をはじめ応援してくださった皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

今後、バドミントン部一同、精一杯活動に励んでいきますので応援よろしく願います。

定時制の活動

教頭 慶野 清貴

「生徒がとても素直である」赴任して真っ先に受けた生徒の第一印象です。

昼間はアルバイト等に励み、夕方からは学業に勤しむ。大人でさえ大変な生活を、まだ十代の生徒が笑顔で過ごしている姿に感銘を受けました。

高校生活の中で、一人ひとりが充実した学校生活を送り、コミュニケーション能力やリーダーシップスキルを身につけていってほしいと思います。

【入学式・始業式】

令和5年度入学式が行われ、新入生 名は、緊張しながらも希望に満ちた表情で参加しました。

校長先生は新入生に対し、学校での学びの大切さや、社会に出てから必要とされる力について挨拶をされました。

新入生達には、今後の高校生活に向けて、さまざまな目標を持ち、学校生活を充実させるために、努力を重ねていくことを期待します。

また始業式で生徒たちは、校長先生の「志のみ持参」というテーマの講話を真剣に聞き入り、新学期のスタートをきりました。

生徒たち一人ひとりが目標に向かって努力し、充実した学校生活を送って欲しいと願っています。

【学校生活】

○授業

学校生活の中心となる授業は、講義形式やグループワーク、実験などさまざまな方法で行われます。教員が知識やスキルを伝えながら、ディスカッションを促し、生徒の能動的な学びを引

き出すことで、人間として大きく成長が出来るようにするだけでなく、和気藹々とした雰囲気も定時制の特長だと感じます。

○学校行事

学校行事は、教育の一環として学びの機会を提供することが重要であり、講演会やワークショップ、キャリアガイダンスなどを通じて、社交性やコミュニケーションスキルを育みます。

学年対抗で行われた「クラスマッチ」では、様々な競技が実施されました。「全員参加・全員が楽しむ」を目標に競技を選定し、自分たちでルールを作り実行していく姿は、学校全体が団結していく姿そのものでありました。

【高校定時制通信制体育大会】

定時制・通信制高校生のスポーツの祭典である通称「定通大会」が開催され、本校からは卓球部、バスケットボール部を含めた計4部が参加し、陸上部、バドミントン部が全国大会に出場しました。5名の選手が全国大会で力を出し切りました。

【終わりに】

今後も定時制では、生徒のキャリア支援を推進するとともに、自己肯定感を高め、「土一の定時制に入学してよかった」と思える高校を目指して、教職員一丸となって生徒の支援をしてまいります。

事務室だより

事務室長 大森 伸一

ガガガガッ！7月のある土曜

日、特別棟から響く大きな音。生物室床の張替え工事（本会報第80号表紙上空写真の中央右側、ネットで囲まれている建物）に伴う床を削る音です。築50年を超える特別棟大改修工事が、令和5年1月に4階から始まり1階まで、室内外改修と配管類の全交換工事です。通常授業日も工事は行っていますが、試験期間は音出し禁止、大きな音が出る作業は休日に集中して行うため、事務室職員が交替で出勤し対応しています。竣工は12月以降になりますが、完成した暁には、生まれ変わった特別棟を是非ご覧ください。

特別棟改修に先立ち、旧本館の電気設備改修も行いました（現在、仮図書室として使用中）。LED照明を新設し、教室内が非常に明るくなりました。同時に無線LAN設備も設置し、授業で必要不可欠なタブレットが使えるようになりました。今後は選択授業での活用も期待できます。また、同窓会のお力添えにより、旧本館屋外トイレが改築されました。旧本館やプールを利用して生徒にとっては朗報となりました。

さて、附属中学校開校にあわせた令和2年度のエレベーター新設工事で、学校内ではどこかで、何かしら工事が行われている状態が続いています。事務室職員一同、生徒、職員が安全に、安心して利用できる施設設備の整備と維持管理に今後も務めていきます。

進路状況報告

東大15名(国公立全国19位)
京大5名
筑波大34名
東北大22名
国公立大医学部医学科21名

進路指導部長 石垣 政雄

今年度の大学入学共通テストは、センター試験以降過去最低値を記録した昨年度から、文系7科目型が+23点、理系7科目型が+38点と大幅に上昇しました。これには、数学の平均点アップが大きく影響しています。一方で、生物は、昨年度の過去最低だった平均点を更に下回り、共通テストとなって2度目の得点調整が実施されました。また、英リーディングや国語の平均点低下も目立つなど、ほとんどの科目で読み解くべき文章や資料の分量が増加しており、負荷の大きい非常にハードな試験になっています。

が102となつています。共テ利用方式の増加は、各大学が新方式を導入するなどの施策を行っていることが要因で、従来の方式だけでの増減を見ると、やはり減少傾向にあります。18歳人口の減少や中堅大学における年内入試へのシフトに加え、私立大一般選抜全体の競争緩和による、1人あたりの併願校数減少の影響と言えるでしょう。

本校の合格状況については表の通りです。国立難関大学の合格者数は、北大12名、東北大22名、東大15名、一橋大1名、名大2名、京大5名、阪大6名、九大1名と合計64名で、前年度とほぼ同数という結果でした。合格者の多い大学は、茨城大21名、筑波大34名、千葉大19名で、地元3大学へは前年度比15名増と大きく飛躍・前進しました。次に医学部医学科については、今年も国公立大学に21名の合格者を出すなど着実な成果を上げています。特に今年度は、筑波大に推薦入試で2名、一般入試で4名が合格しました。また、北大1名、秋田大に4名など、最後まで諦めない姿勢が窺えます。

令和4年度入試合格状況

国公立大学

Table with 3 columns: 大学, 合格者, 新卒. Lists various national/public universities and their admission statistics.

私立大学

Table with 3 columns: 大学, 合格者, 新卒. Lists various private universities and their admission statistics.

大専校

Table with 3 columns: 大学, 合格者, 新卒. Lists specialized schools and their admission statistics.

医学部医学科

Table with 3 columns: 大学, 合格者, 新卒. Lists medical departments and their admission statistics.

令和4年度 進修同窓会決算書

収入総額 14,028,010円
支出総額 10,658,821円
差引残額 3,369,189円(次年度へ繰越)

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 比較増減(△), 備考. Rows include 繰越金, 終身会費, 年会費, 入会金, 繰入金, 寄付金, 雑収入, 合計.

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 残額, 備考. Rows include 総会補助, 会報発行費, 通信費, 卒業記念品費, 卒業周年記念品費, 会議費, 支部連絡費, 生徒奨励費, 生徒活動補助費, 別途積立金, 慶弔費, 事務局費, 旧本館活用事業費, 海外研修旅費, 予備費, 合計.

上記のとおり決算しました。

令和5年3月10日

茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会会長 大野 金一

監査の結果上記のとおり相違ないことを認めます。

令和5年3月10日

監事 草薙宏明
監事 高山了
監事 杉山博

令和5年度 進修同窓会予算書

収入総額 11,905,000円
支出総額 11,905,000円
支出総額 0円

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 比較増減(△), 備考. Rows include 繰越金, 終身会費, 年会費, 入会金, 繰入金, 寄付金, 合計.

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 比較増減(△), 備考. Rows include 総会補助, 会報発行費, 通信費, 卒業記念品費, 卒業周年記念品費, 会議費, 支部連絡費, 生徒奨励費, 生徒活動補助費, 別途積立金, 慶弔費, 事務局費, 旧本館活用事業費, 海外研修旅費, 予備費, 合計.

*項目間の流用を認める。

上記のとおり提案いたします。

令和5年4月29日

茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会会長 大野 金一

編集後記
今年は中学校3学年が揃い、初の6学年が揃いました。5月にコロナウイルスが5類指定に。多くの制限がなくなり、マスクは任意に。久々の制限無しの一高祭で活気を取り戻しました。
諏訪理氏(高47回)が宇宙飛行士に。SEGに参加した生徒と一緒にスミソニアン国立航空宇宙博物館にて記念撮影。本紙面が以前のような活気ある内容で編集できることを改めて幸福に感じる今日この頃です。本校附属中学校開校3年目を迎え、来年度はついに中学から高校へ進級する生徒が。皆様にとっても幸多いことを願ひ、編集後記と替えさせていただきます。(長谷川)

- 進修同窓会会報第80号 発行日 令和5年12月1日 会報編集委員会
委員長 武井 秀一(高23回)
委員 飯村 弘(高5回)
櫻井 忠男(定53回)
高山 丁(高18回)
竹井 茂雄(高19回)
原田 晋市(高20回)
鈴木 義人(高21回)
鴻巣 茂(高21回)
江田 麻裕子(高34回)
大久保 博(高37回)
日向 久(副校長・高36回)
浅野 周一(全日教頭・高38回)
慶野 清貴(定時教頭)
廣瀬 光幸(中学教頭・高38回)
大森 伸一(事務室長)
長谷川 学(高52回)

会費納入のご協力とお願い
令和5年度会費納入状況は、2141名の皆様方から8236千円を納入していただきました。
会費は、各事業項目に充てられますので、ご協力よろしくお願ひします。
進修同窓会規約(抜粋)
第12条 本会の経費は第10条の入会金、年会費、終身会費及び篤志寄付金を以て充てる。
一、年会費は、6年目以降は、3千円以上とする。
二、終身会費は3万円以上とする。

住所変更手続きのお願い
住所や電話番号等を変更された方は、左記のEメールへご送信下さい。又同窓会会員名簿の不明者欄に掲載されている知人や友人がおりましたら、当人に事務局へ連絡するようお願い致します。
ご協力よろしくお願ひいたします。
進修同窓会事務局
Eメール shinshu@tsuchihara.h.tokied.jp
FAX 029-826-3521

令和6年度進修同窓会総会の御案内
次年度進修同窓会・卒業周年記念祝賀式は、次の通り開催いたします。
一、期日 令和6年4月27日(土) 午後1時
二、場所 土浦第一高等学校体育館
卒業周年記念祝賀式
卒業60周年 高16回、定14回
卒業50周年 高26回、定24回
卒業40周年 高36回、定34回
卒業25周年 高51回、定49回
卒業15周年 高61回、定59回
一般会員・周年記念該当会員の数多くの方が母校の門をくぐられることを期待しております。